

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通計画に基づく事業)

令和 5年 月 日

協議会名: 坂出市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
琴参バス(株)	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金 坂出市循環バス(東ルート)	・車内の児童画展示、バスの乗り方教室等のソフト事業に引き続き取り組んだ。 ・商店街のイベントチラシにおいて、バスを利用するイベント来場を呼び掛けている。	A 安定した利用があり、市街地における利便性の高い移動手段として重要な役割を担っており、計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	【目標】 86.3人/日、4.6人/便 【実績】 78.9人/日(達成率91%、前年比103%、前々年比96%) 4.2人/便(達成率91%、前年比102%、前々年比95%) 【収支率】 10.5%(前年比+0.4%、前々年比+0.1%) 感染症の影響緩和や、感染症対策の実施により利用者数が回復したが、前々年(令和2年度)実績を基準とする目標値には達していない。(従来の東ルートの利用者が令和3年度運行開始の中ルートに流れていることも想定される。)市街地の主要施設へのアクセスが便利になり、市民や来訪者の移動手段が確保された。	・地域公共交通計画に位置づけられた事業(施策1-6)として、地域の商店やイベントと連携することで、中心部の魅力向上を図る。 ・バスロケーションシステムや乗降センサーを活用して、利便性向上や利用状況の把握に取り組む。
琴参バス(株)	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金 坂出市循環バス(西ルート)	A ・地域公共交通計画策定にあたり、住民アンケートによるニーズ調査や認知度調査を行い、課題を整理した。 ・鉄道および幹線系統との接続利便性について、JR坂出駅においてそれぞれ接続を行っており、それぞれ概ね5~20分程度で接続できる。	【目標】 63.7人/日、3.3人/便に対し 【実績】 64.9人/日(達成率102%、前年比113%、前々年比107%) 3.4人/便(達成率103%、前年比113%、前々年比106%) 【収支率】 9.4%(前年比+1.0%、前々年比+0.9%) 感染症の影響緩和や、感染症対策の実施により利用者数が回復した。市街地の主要施設へのアクセスが便利になり、市民や来訪者の移動手段が確保された。		
琴参バス(株)	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金 坂出市循環バス(中ルート)	A 東ルート・西ルートの利便性を補完する役割を果たし、市街地における利便性の高い移動手段として重要な役割を担っており、計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	【目標】 26人/日、2人/便 【実績】 ※今年度運行開始 15.3人/日(達成率59%、前年比111%) 1.2人/便(達成率60%、前年比109%) 【収支率】 7.6%(前年比+0.6%) 感染症の影響緩和や、感染症対策の実施により利用者数が増加した。一方で、運行開始時に想定していたほどの需要はなかった(従来の東西ルートでニーズを満たしていた)ことが考えられ、見直しの検討が必要である。		

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
琴参バス(株)	<p>地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金</p> <p>王越線(青海行き)路線バス(大屋富経由／高屋経由)</p>	<p>・地域公共交通計画策定にあたり、住民アンケートによるニーズ調査や認知度調査を行い、課題を整理した。</p> <p>・鉄道および幹線系統との接続利便性について、JR坂出駅においてそれぞれ接続を行っており、鉄道とは5～20分程度で、幹線系統とは概ね40分以内で接続できるようダイヤ設定を行っている。</p>	A 公共交通空白地域を解消して、郊外部の住民の移動手段として重要な役割を担っており、計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B <p>【目標】 大屋富経由：12.0人/日、高屋経由：24.1人/日</p> <p>【実績】 大屋富経由：8.1人/日 (達成率68%、前年比113%、前々年比103%) 高屋経由：16.0人/日 (達成率66%、前年比101%、前々年比94%)</p> <p>【収支率】 大屋富経由：5.1%(前年比▲5.5%、前々年比▲4.8%) 高屋経由：19.4%(前年比▲0.7%、前々年比▲5.0%)</p> <p>感染症の影響緩和や、感染症対策の実施により利用者数が微増したが、利用者数は依然少ない状況にある。郊外部に住む住民の通院・買い物等のための移動手段が確保された。</p>	<p>・王越地区の地域組織(王越ささえ♥隊)での協議を受けて、王越線(木沢行き)との接続をR5年度事業から開始している。</p> <p>・地域公共交通計画に位置づけられた事業(施策1-1)として、郊外部から中心部への公共交通ネットワークの維持・強化のため、地域の実情に合った運行形態等を検討する。</p> <p>・バスロケーションシステムや乗降センサーを活用して、利便性向上や利用状況の把握に取り組む。</p>
琴参バス(株)	<p>車両減価償却費等国庫補助金</p> <p>坂出市循環バス(東ルート、中ルート)車両各1台</p> <p>王越線(高屋経由)バス車両1台</p>	<p>令和元年9月に王越線(高屋経由)、令和2年9月に循環バス(東ルート)で低床型ノンステップバス車両を1台ずつ導入し、利用環境の改善が図られている。また、新規路線の循環バス(中ルート)に小型車両を導入した。</p>	A 事業計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 計画に位置付けられたとおり車両の更新が行われ、利用環境の改善が図られている。	<p>適切な安全管理を行うとともに、ノンステップバス導入方針を維持し、利用者の利便性向上を図る。</p>

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
(有)府中タクシー	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金 加茂・神谷等地區デマンド	・地域公共交通計画策定にあたり、住民アンケートによるニーズ調査や認知度調査を行い、課題を整理した。 ・地域公共交通計画策定にあたって、各地区連合自治会長へのヒアリングを実施し、デマンド型乗合タクシーの利便性向上に向けた意見を伺うとともに、地域でデマンド交通を必要とするかたへの周知を依頼した。 ・利用促進を図るため、運行地域の世帯に利用案内チラシを配布してPRを行った。 ・鉄道および幹線系統との接続利便性について、JR坂出駅においてそれぞれ接続を行っており、鉄道とは概ね30分以内に、幹線系統とは概ね60分以内に接続できる。	A 公共交通空白地域を解消して、地域住民の交通手段として、重要な役割を果たしており、計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 【目標】6.3人/日 【実績】5.2人/日 (達成率83%、前年比90%、前々年比87%) 【収支率】9.1%(前年比▲2.2%、前々年比+0.2%) 利用頻度の高い特定ユーザーの変化により、前年度と比較して利用者が減少した。(運行開始当初と比較して利用者層が変化していることも想定される) 郊外部に住む住民の通院・買い物等のための移動手段が確保された。	
四国タクシー(株)	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金 川津地区デマンド	・地域公共交通計画策定にあたり、住民アンケートによるニーズ調査や認知度調査を行い、課題を整理した。 ・地域公共交通計画策定にあたって、各地区連合自治会長へのヒアリングを実施し、デマンド型乗合タクシーの利便性向上に向けた意見を伺うとともに、地域でデマンド交通を必要とするかたへの周知を依頼した。 ・利用促進を図るため、運行地域の世帯に利用案内チラシを配布してPRを行った。 ・鉄道および幹線系統との接続利便性について、JR坂出駅においてそれぞれ接続を行っており、鉄道とは概ね30分以内に、幹線系統とは概ね60分以内に接続できる。	A 公共交通空白地域を解消して、地域住民の交通手段として、重要な役割を果たしており、計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 【目標】2.5人/日 【実績】1.8人/日 (達成率72%、前年比90%、前々年比75%) 【収支率】17.8%(前年比+1.1%、前々年比▲0.6%) 利用頻度の高い特定ユーザーの変化により、前年度と比較して利用者が減少した。(運行開始当初と比較して利用者層が変化していることも想定される) 郊外部に住む住民の通院・買い物等のための移動手段が確保された。	・地域公共交通計画に掲げる事業(施策1-2)として、利用者登録制度、中心部の乗降場所制限等、制度設計の見直しを検討する。 ・地域公共交通計画に掲げる事業(施策5-1)として、AIデマンドなど最新技術の活用可能性について、地域課題を解決するものとなり得るかという観点から研究・検討する。
(有)大和タクシー	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金 府中・西庄地区デマンド	・地域公共交通計画策定にあたり、住民アンケートによるニーズ調査や認知度調査を行い、課題を整理した。 ・地域公共交通計画策定にあたって、各地区連合自治会長へのヒアリングを実施し、デマンド型乗合タクシーの利便性向上に向けた意見を伺うとともに、地域でデマンド交通を必要とするかたへの周知を依頼した。 ・利用促進を図るため、運行地域の世帯に利用案内チラシを配布してPRを行った。 ・鉄道および幹線系統との接続利便性について、JR坂出駅においてそれぞれ接続を行っており、鉄道とは概ね30分以内に、幹線系統とは概ね60分以内に接続できる。	A 公共交通空白地域を解消して、地域住民の交通手段として、重要な役割を果たしており、計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 【目標】9.6人/日 【実績】6.4人/日 (達成率67%、前年比108%、前々年比70%) 【収支率】15.3%(前年比+2.2%、前々年比▲3.6%) 利用頻度の高い特定ユーザーの変化により、前々年度の利用が大きく減少したところ、前年度と比較して利用が回復したが、前々年の水準には満たない。(運行開始当初と比較して利用者層が変化していることも想定される) 郊外部に住む住民の通院・買い物等のための移動手段が確保された。	